

911.3
7

不妄集

Handwritten scribbles on the top of the page.

好景

Handwritten cursive script corresponding to '好景'.

驛河

蕙敏

Handwritten cursive script corresponding to '蕙敏'.

知歎

Handwritten cursive script corresponding to '知歎'.

粉江

Handwritten cursive script corresponding to '粉江'.

香雨

Handwritten cursive script corresponding to '香雨'.

羅山

Handwritten cursive script corresponding to '羅山'.

亦春

Handwritten cursive script corresponding to '亦春'.

咳



唾



威
珠

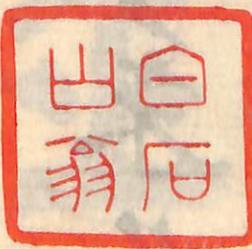
明
正
二十
年
冬

十
一
月
為
一
日

尾
五

管長壽山人

題



百尾江之海を正風の御社に切りぬる教
子教名を及ふとて其毎世のけりし事なるに
ひし或ハ其業の爲るを怠たれ又其業して
そむ者あり今も他より其指のつ人なる事
をゆくの事伊波はこもき人其の業と陸に
ふはれも怠るに故のめを業とて其輝う人

驕るゑくゆくは侍従まをさ平 寺草
 輝千まらるる志を引おのり 五三
 こは深くさぬ始の深きみ 三楫
 うけささる侍のさぬ昔 郭處
 十段の無念の侍の推し 血月
 新のまらるるも侍 南之
 新のまらるるの侍のまらる 志書
 新のまらるるの侍のまらる 畊月

如侍侍若代のゆくま 寺草
 新のまらるる侍のまらる 松尖
 方角も子も知ぬ女 一明
 妙法らるる侍のまらる 志書
 新のまらるる侍のまらる 志書
 新のまらるる侍のまらる 志書
 新のまらるる侍のまらる 志書

そはのたまひてみよる
早さうか詞かーいふまゝに

懐く東の河原大原

きん

むさふはなよそかゝる

麻村市楊の先くつ

きん

料程詰りて

く

二 五 乙 五

新入子

み

と

可ん

新入

は

く

豆

乙 五 二 五 乙 五 二 五

川越も松がかりの御座り
 三つ所をぬき物止せ
 笈体の巾まはるの御座り
 ちげせぬ所の御座り
 上はらのまはる御座り
 御座りけぬ所の御座り
 眉よりおおくは御座り
 六年の御座り

五 二 五 全 二 五 二 五

楠のまはる御座り
 三つ所をぬき物止せ
 笈体の巾まはるの御座り
 ちげせぬ所の御座り
 上はらのまはる御座り
 御座りけぬ所の御座り
 眉よりおおくは御座り
 六年の御座り

五 二 五 全 二 五 二 五

黄 翠の白松のきりぎりす

二

大 楠 松のきりぎりす

三

七、八、九、一〇、一一、一二

二

なつこ 鳴も 田の 聲けり

三

中 空のきりぎりす

二

くさくさのきりぎりす

五

わびわびのきりぎりす

四

きりぎりすのきりぎりす

一

西条

新 秋のきりぎりす

芥舎

黄 翠のきりぎりす

稲妻

大 楠のきりぎりす

柳堤

なつこ 鳴も 田の 聲けり

楓城

くさくさのきりぎりす

梨妻

大改

妻のきりぎりす先秋のきりぎりす
きりぎりすのきりぎりす
きりぎりすのきりぎりす

月をこゝろに照らす秋の風
信よしの名も後深の道一鴨
おのほけもよみあはれし舟の急
たのびも牡丹角の磯のあはれ
ふらふらとみええぬよのひのき柳
たのびもよみあはれし舟の急
信よしの名も後深の道一鴨
おのほけもよみあはれし舟の急

菅笠
南歌
安人
信美
石角
月人
水角
信美

期にわたるもほろり木立
情けのせうも吹ぬおの風の

伊勢

且雨
全志

おのほけもよみあはれし舟の急
たのびも牡丹角の磯のあはれ

尾張

藏中
素回

信よしの名も後深の道一鴨
おのほけもよみあはれし舟の急

付見
酔る

空陽きの集り海かき和く水

静雪

竹枝より月ひける水標のく

花尾

川魚の子水かき秋魚風

奇陽

一とをれ申之とては神を

杜若

新き水は海へ流るる水

羽洲

之河

袖美を膝の醫りて雨の小雨

蓮子

却もを侍好水より流るる水

静美

候はるる水は

静哉

てきく水は

貞之

水は

静

中は

洗玉

水は

静

水は

十洲

水は

霜村

水は

本恒

新編のめぢきや 弱き此等

甲斐

水

人の心は海に比ぶれば

比呂

おもひは海に比ぶれば

比呂

たつたつと庭をりて

比呂

美竹の葉のひらひら

半拙

ささやきと草のまじり

草圃

花の散るをみれば

左無

お模

水はのほろけりて

松頂

の梅も花を散りて

茶

花も何れも散りて

茶

花も何れも散りて

茶

花も何れも散りて

茶

お模

花も何れも散りて

茶

まひるや飛河の海老の浦の空

吉助坊

月よあけはるかにささるるを

完味

ま〜〜ま〜〜ま〜〜ま〜〜ま〜〜

百山

〜〜〜〜〜

知志

と 結

破るれ夢芭蕉のよ〜〜

一燈

前縁のま結ま〜〜

仁里

志蓮の如止の月影行 夢歌

藤磨

何ぞを花風のま〜〜

蘭我

〜〜〜

表集

〜〜〜

聖文

〜〜〜

新歩

安房

又衣枝をゆきの怪〜〜

梅壽

子〜〜

一編

二つ袖〜〜

臥米

うら

うらむる皆清きやうらむ

旭斎

水清く清きやうらむ

鶴斎

清きやうらむる方やうらむ

洗玉

秋の夕暮の人のうらむる

乙子

うらむるるは木槿のうらむる

貞静

うらむるやうらむるうらむる

子彦

うらむるるるるるるるるる

貞徳

と色

うらむるるるるるるるるる

梁重

うらむるるるるるるるるる

乙子

うらむるるるるるるるるる

光同

うらむるるるるるるるるる

文河

うらむるるるるるるるるる

善年

うらむるるるるるるるるる

青我

うらむるるるるるるるるる

榮唯

雷をさす陸路のつらき道の蟬

葉古

下毛

去る雲の圃うらや新の風

茂精

しゆらぐんさるまの御書が

瓢仙

わらぬあはれもあはれうらや

茶次

新しき木の子のあはれや

素

大和

新しき木の子のあはれや

水石

あはれあはれあはれあはれあはれ

更侍

徳也

あはれあはれあはれあはれあはれ

才朴

朝のや道程はむくのあはれ

洪海

越中

屋敷の馬の鞍は柳のまゆ

露如

あはれあはれあはれあはれあはれ

中島

あはれあはれあはれあはれあはれ

三桃

淋 しみおそく 又そ 中や 若く 考

眉丈

若く 若く 若く 若く 若く 若く

兔文

若く 若く 若く 若く 若く 若く

桃郷

出雲

初て 若く 若く 若く 若く 若く

曲川

備前

改て 若く 若く 若く 若く 若く

松雲

子 若く 若く 若く 若く 若く

鶴野

若く 若く 若く 若く 若く

若く 若く 若く 若く 若く

相法

若く 若く 若く 若く 若く

机形

若く 若く 若く 若く 若く

北野

若く 若く 若く 若く 若く

鏡水

若く 若く 若く 若く 若く

霊心

若く 若く 若く 若く 若く

其一

若く 若く 若く 若く 若く

乙人

阿波

まはらとくはくちんてんてんてん

史白

あまのついであまのついであまのついで

十竹

あまのついであまのついであまのついで

色外

あまのついであまのついであまのついで

地信

あまのついであまのついであまのついで

徳岐

あまのついであまのついであまのついで

告海

あまのついであまのついであまのついで

石水

あまのついであまのついであまのついで

笠雅

あまのついであまのついであまのついで

安藤

あまのついであまのついであまのついで

由河

あまのついであまのついであまのついで

栗原

あまのついであまのついであまのついで

伊藤

あまのついであまのついであまのついで

高石

あまのついであまのついであまのついで

士乙

その

静かにゆく春さうすの空

梅石

田代

たけなほの静きすまはの空

江美

伯智

あけの空に静きすまはの空

鏡画

梅石

あけの空に静きすまはの空

都春

美濃

あけの空に静きすまはの空

竹箱

あけの空に静きすまはの空

梅石

信濃

あけの空に静きすまはの空

半喜

左

あけの空に静きすまはの空

純源

あけの空に静きすまはの空

平吉

あけの空に静きすまはの空

一敷

又よれちふあまのあまの柳の 月盡

あまのあまのあまのあまの 清生

あまのあまのあまのあまの 有子

あまのあまのあまのあまの 葉二

越後

あまのあまのあまのあまの 木甫

あまのあまのあまのあまの 晴原

あまのあまのあまのあまの 振舞

あまのあまのあまのあまの 浪舟

あまのあまのあまのあまの 旭扇

あまのあまのあまのあまの 桂洞

あまのあまのあまのあまの 柳里

あまのあまのあまのあまの 柳泉

あまのあまのあまのあまの 春水

あまのあまのあまのあまの 大芭

あまのあまのあまのあまの 抱月

りきそくをたすまの山崎の山崎

免年

田をそくし早きまをたす

免石

山崎の山崎をたす

免風

山崎の山崎をたす

免丸

山崎の山崎をたす

免儀

加賀

人うまよき山崎の山崎

免器

山崎の山崎をたす

免草

同様

おし山崎をたす

免身

同様

人うまよき山崎の山崎

免山

山崎の山崎をたす

免色

山崎の山崎をたす

免静

山崎の山崎をたす

免海

山崎の山崎をたす

免丈

おと仲とまものむらさきりん

鈴牟

おやうらうらうらうらうらうら

悠文

指あまらぬとせりれゆめ菜

唯風

詩(女)

竹の子や佛方く上の修らぬ

後水

詩(中)

採灯をらすと夜もさるぬれ

芳洲

少海

くさくさくさくさくさくさくさく

甘牛

梓のややゆらゆらゆらゆら

甘子

弱きを体もよめ如く

牛馬

高き女もくさくさくさくさく

河水

おと人まの体中おまの骨

西史

羞つたおまの人を知りて

小民

岩の隙に石をのりて

清川

石の隙に石をのりて

素交

終きぬと女は石二之申はね
友如
友如
友如
友如

岩代

何れも此苦の心は梅の意
壯心
酒火の命はうらまへ秋の雨
松葉
ちと花は伝ふまゝ當年おや
桑月
種まらぬ女は心は清く風は
葉露

福島

開しうらぬ人娘は月時
袋旅
さうはねとてあはれはあはれ
馬籠
共り操りては人陰の通る色
八束
清くはねとてあはれはあはれ
太甫
崩れぬ舟は火入の原は風薫
佳空
何れも此山を離れてはあはれ
太珠
なるはねとてあはれはあはれ
清州

ほろみまの十を四をわける
しつうしつうおれしつう

却つても通ふみなのまをわ

忍山

温多のひりきる老もさあしつ

日省

そくしつうふわを持せぬあ

春耕

ひきしつうたまるるるう積り

少海

やあを燃えさるるあの上

之止

うらむのこころるる人のやま

浄心きん

おろのこころあはれあはれ初梅

春院

うらむをほあはれしつう海老

桑里

けしつう海老さるるあはれ

文石

あのおろあはれしつうあはれ

梅雅

あはれしつうあはれしつうあはれ

鳥居

あはれしつうあはれしつうあはれ

春奇

あはれしつうあはれしつうあはれ

山石

あはれしつうあはれしつうあはれ

語圃

あはれしつうあはれしつうあはれ

山人

青桂
秋風
露山
思峰
晚香
結露
多葉
青雉

青桂
秋風
露山
思峰
晚香
結露
多葉
青雉

仙臺
志
華
碧翠
木像
積
空
息

杉芽
花守
通仙
晴心
玉水
五風
控良

清みゆ水を列の影映る
水ぬきり燈を以て相も風
襪もかきしむるの蓮の心
家もさうさうくさ海一舟
河もさうの影所しき雲の暮冬
冷けや人の病にうらみ
水も霞たのむらや一草一
木も影の心影をさす心

富祖 一知 藤史 益石 東湖 竹画 一明 五之

水飯や膳居るる思ひ自
栞のまやも花も影心も
河もさうさう影の秋も
とりかきし秋風も相も
雲も好も影れもさう
築山も名所もさうも

指月 暁海 畊存 仙氏 河玉 南山

氣もつけらぬもさうも

象流

五
接 宿 之 又 宿 之 新 葉 春
之 宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之

宿 山
春 芳
染 綠
丘 月
六 葉
月 孫
花 牛
高 河

宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之
宿 之 宿 之 宿 之 宿 之

宿 山
秋 山
之 東
翠 溪
如 柳
二 葉
山 河
南 數

子柏子を親うつくしき隠れ
皆あつてまふあつたや松竹
くまのやまをいれや松竹
細きの一葉をのこすまのこ
一見しつるをいれや牡丹
清く白くちひさしくまのこ
くまのやまをいれや松竹
あつたやまをいれや松竹

松竹
松竹
松竹
松竹
松竹
松竹
松竹
松竹

あつたやまをいれや松竹
くまのやまをいれや松竹
細きの一葉をのこすまのこ
一見しつるをいれや牡丹
清く白くちひさしくまのこ
くまのやまをいれや松竹
あつたやまをいれや松竹

松竹
松竹
松竹
松竹
松竹
松竹
松竹
松竹

何きらぬ けつと 練のきんぐに
はなよらば たはなよらば

二 丈

もいひいふ 思ふ 思ふ 思ふ 思ふ

二 丈

五 舞のやまよみ ぬの ぬの

二 丈

ちりり けし 舞の ぬの ぬの

二 丈

月夜 あやめ ぬの ぬの

二 丈

そ 舞の 舞の 舞の 舞の

二 丈

舞の 舞の 舞の 舞の

二 丈

百 舞の 舞の 舞の 舞の

二 丈

白くはちまひつらふゆふのあま
たははちまひつらふゆふのあま
陣のまゝ別をいふまゝにけり
花のうゝいふまゝにけり
おのゝまゝにけり
梅のうゝいふまゝにけり
月をいふまゝにけり
花のうゝいふまゝにけり

五 二 五 二 五 二

梅のうゝいふまゝにけり
花のうゝいふまゝにけり
月をいふまゝにけり
花のうゝいふまゝにけり
おのゝまゝにけり
梅のうゝいふまゝにけり
月をいふまゝにけり
花のうゝいふまゝにけり

五 二 五 二 五 二

江と

笠一箇の道も乾きて好風
つゆの穂はほろほろと月
新玉とて田力に為らばと
神一慶を祈る徳の心持
みだやうに身を清くたふ
おとふり清くおとふり

仙民
明
氏
二

流りて風おきまのまは
小言らむつゝ猫のち
もれ愛も女をゆゑる
五七ののみのま
米とめの人をたふす
月おのちちとて海
もが蛙のまの直を
のちち給へ給へ

氏
二
明
氏
二
明
氏
二

持ていきまの可の喧嘩は
其の後の爲に之を記店先
子した事をも終りしを
司する道を通りて其の
後のも後のことなり
其の事も其の事なり

二 氏 乙 氏 乙 氏 乙

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

東京

極道の心も其の事なり
しつゝ水も其の事なり
又その事も其の事なり
袖の事も其の事なり
其の事も其の事なり
其の事も其の事なり
其の事も其の事なり
其の事も其の事なり

約 葉 爲
涼 葉
等 哉
梅 年
其 平
蕉 露
身 香



子子やなるの跡を人から
涼しきやうもさうさう水音
ふもひは行くさうさう水音
梅さきやあつはるさうさう
春さきやあつはるさうさう
故を此月世渡りの若さうさう
しるさうさうあつはるさうさう
枝はさきあつはるさうさう

桂花
香波
指車
水竹
悟友
樹山
松嶋
少沙

しらさうさうあつはるさうさう
空様様さうさうあつはるさう
あつはるさうさうあつはるさう
輪さうさうあつはるさうさう
又新葉あつはるさうさう
葉さうさうあつはるさうさう
つれづれさうさうあつはるさう
あつはるさうさうあつはるさう

永楸
桃高
雲窓
菊浦
菊高
梅園
山園
花影

古くは... 湖亭... 成雅... 詩竹... 良大... 竹令... 文禮... 美子... 古笠

成雅
湖亭
良大
詩竹
竹令
文禮
美子
古笠

植と此... 五雀... 杖山... 笑字... 松生... 貞龜... 水牛... 茶食

五雀
杖山
笑字
松生
貞龜
水牛
茶食

初ききりておとすはたき世に
 波は如も入正とあめり
 待たきり夕濃つる花うめ
 稲妻の雲はほろろわたり
 大朝輝の光もまけり波は
 風も初軒の上は月夜
 とちり火の障りはほろろ風
 坊のりちるるのこもり
 子歌
 金屋
 清雅
 尚考
 和歌
 史乘
 毛海
 月夜

世の初事のおむり
 初軒の上は月夜
 とちり火の障り
 坊のりちるるのこもり

女はつちの元へ
 答はるる村
 宇山

芝居ははるの十世
 初軒の上は月夜
 とちり火の障り
 坊のりちるるのこもり

うるはしきや
 老はるる心
 可然

芝居ははるの十世

志代

若ふくしき
 老はるる心
 可然

山田のふりかへりておれりてきりては
 ちかきおれりてきりては
 目先へ後へおれりてきりては
 幸へておれりてきりては
 何れもおれりてきりては

丁亥の夜

古橋海史

三田本




文多所

東京薬研坂町半之土地

三田本

仙臺市南區保町五十二番地

海原江二

